

監査 No	統合内部監査チェックリスト		承認	作成
チェックリスト No				
発行: 年 月 日	被監査プロセス: 工事プロセス			
監査員:	被監査者: 工事部長			
ISO 規格 要求事項 茶字: ISO9001:2015 独自の要求事項 青字: ISO14001:20015 独自の要求事項 黒字は共通	No	質問事項	評価	メモ
		前回の宿題事項の確認		
リスク及び機会/環境側面				
<p>5.1.2 顧客重視 トップマネジメントは、次の事項を確実にすることによって、顧客重視に関するリーダーシップ及びコミットメントを実証しなければならない。 b) 製品及びサービスの適合並びに顧客満足を向上させる能力に影響を与え得る、リスク及び機会を決定し、取り組んでいる。</p> <p>6.1.1 品質・環境マネジメントシステムの計画を策定するとき、組織は、4.1 に規定する課題及び 4.2 に規定する要求事項を考慮し、次の事項のために、環境側面(6.1.2 参照)、順守義務(6.1.3 参照)、並びに 4.1 及び 4.2 で特定したその他の課題及び要求事項に関連する、取り組む必要があるリスク及び機会を決定しなければならない。 a) 品質・環境マネジメントシステムが、その意図した結果を達成できるという確信を与える。 b)c) 外部の環境状態が組織に影響を与える可能性を含め、望ましい影響を増大する。又は 望ましくない影響を防止又は低減する。 d) 改善を達成する。 組織は、環境マネジメントシステムの適用範囲の中で、環境影響を与える可能性のあるものを含め、潜在的な緊急事態を決定しなければならない。</p> <p>A6.1.1 緊急事態は、顕在した又は潜在的な結果を防止又は緩和するために特定の力量、資源又はプロセスの緊急の適用を必要とする、計画していない又は予期しない事象である。緊急事態は、有害な環境影響又は組織に対するその他の影響をもたらす可能性がある。潜在的な緊急事態(例えば、火災、化学物質の漏えい、悪天候)を決定するとき、組織は、次の事項を考慮することが望ましい。 - 現場ハザードの性質(例えば、可燃性液体、貯蔵タンク、圧縮ガス) - 緊急事態の最も起こりやすい種類及び規模 - 近接した施設(例えば、プラント、道路、鉄道)で緊急事態が発生する可能性</p>	1	品質・環境マネジメントシステムを計画及び運用するに当たって(経営層が)洗いだしたリスク及び機会のうち、工事プロセスに関係するものは何ですか。 例えば、工事成績評価点の向上、人手不足等		
	2	製品の適合並びに顧客満足の向上に関連するリスクには、どんなものがありますか。 例えば、施工中の事故の発生、工期内竣工の遅れ等		
	3	環境に関する潜在的な緊急事態は何ですか。各工事において、どのような事項を考慮して緊急事態を決定されていますか。 例えば 火災、油や化学物質の漏洩、悪天候 考慮する事項 - 現場ハザードの性質 - 緊急事態の最も起こりやすい種類及び規模 - 近接した施設で緊急事態が発生する可能性		
<p>6.1.2 環境側面 組織は、環境マネジメントシステムの定められた適用範囲の中で、ライフサイクルの視点を考慮し、組織の活動、製品及びサービスについて、組織が管理できる環境側面及び組織が影響を及ぼすことができる環境側面、並びにそれらに伴う環境影響を決定しなければならない。</p>	1	工事プロセスの環境側面と環境影響評価、及び著しい環境側面を決定する基準の文書を見せてください。 例：環境側面及び環境影響評価表		

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
<p>環境側面を決定するとき、組織は、次の事項を考慮に入れなければならない。</p> <p>a) 変更。これには、計画した又は新規の開発、並びに新規の又は変更された活動、製品及びサービスを含む。</p> <p>b) 非通常の状況及び合理的に予見できる緊急事態</p> <p>組織は、設定した基準を用いて、著しい環境影響を与える又は与える可能性のある側面(すなわち、著しい環境側面)を決定しなければならない。</p> <p>組織は、必要に応じて、組織の種々の階層及び機能において、著しい環境側面を伝達しなければならない。</p> <p>組織は、次に関する文書化した情報を維持しなければならない。</p> <p>i 環境側面及びそれに伴う環境影響</p> <p>i 著しい環境側面を決定するために用いた基準</p> <p>i 著しい環境側面</p>	<p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p>	<p>環境に有害又は有益な環境影響を及ぼす管理できる環境側面は何ですか。</p> <p>例：廃棄物の発生、振動・騒音の発生、省エネ型建機の使用等</p> <p>社外、社内の前工程及び後工程、に影響を及ぼすことができる（ライフサイクル視点の）環境側面はありますか。</p> <p>例：建設発生土の再利用、六価クロムの溶出</p> <p>これら検討された環境側面の中から、著しい環境側面（重要又は気にかかる環境側面）をどのように決定されていますか。</p> <p>著しい環境側面を部門内にどのように伝達されていますか。</p> <p>工事毎の環境側面をどのように特定されていますか。</p>		
<p>6.1.3 順守義務</p> <p>組織は、次の事項を行わなければならない。</p> <p>a) 組織の環境側面に関する順守義務を決定し、参照する。</p> <p>b) これらの順守義務を組織にどのように適用するかを決定する。</p> <p>c) 環境マネジメントシステムを確立し、実施し、維持し、継続的に改善するときに、これらの順守義務を考慮に入れる。</p> <p>組織は、順守義務に関する文書化した情報を維持しなければならない。</p> <p>5.1.2 顧客重視</p> <p>トップマネジメントは、次の事項を確実にすることによって、顧客重視に関するリーダーシップ及びコミットメントを実証しなければならない。</p> <p>a) 顧客要求事項及び適用される法令・規制要求事項を明確にし、理解し、一貫してそれを満たしている。</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>	<p>工事に適用される順守義務にはどのような項目がありますか。</p> <p>工事を実施する前に届出が必要な項目には、どんなものがありますか。</p> <p>環境以外の関連する法令、規制要求事項には、どんな項目がありますか。</p> <p>例 製品に関連する法令・規制要求事項は箇条 8.2.2 で確認するが、それ以外に独占禁止法、下請法、労働基準法、労働安全衛生法などがあり得る。</p>		
<p>EMS 6.1.4 取組みの計画策定</p> <p>QMS 6.1.2</p> <p>組織は、次の事項を計画しなければならない。</p> <p>a) 次の事項の取組み</p> <p>1) 6.1.1 で特定したリスク及び機会</p> <p>2) 著しい環境側面</p> <p>3) 順守義務</p> <p>b) 次の事項を行う方法</p> <p>1) その取組みの品質・環境マネジメントシステムプロセスへの統合及び実施</p> <p>2) その取組みの有効性の評価</p> <p>リスク及び機会への取組みは、製品及びサービスの適合への潜在的な影響と見合ったものでなければならない。</p>	<p>1</p> <p>2</p>	<p>6.1.1、6.1.2、6.1.3 で決定したリスク及び機会を品質・環境マネジメントシステムのプロセスへどのように統合していますか。</p> <p>例えば、目標に設定する、プロセスの手順に織り込む。</p> <p>リスク及び機会の取組みの有効性を、どのような方法で評価していますか。</p> <p>例えば、マネジメントレビューで目標の達成状況や、(教育訓練等の)実施計画の達成状況を評価する。</p>		

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
<p>これらの取組みを計画するとき、組織は、技術上の選択肢、並びに財務上、運用上及び事業上の要求事項を考慮しなければならない。</p> <p>注記 1 リスクへの取組みの選択肢には、リスクを回避すること、ある機会を追求するためにそのリスクを取ること、リスク源を除去すること、起こりやすさ若しくは結果を変えること、リスクを共有すること、又は情報に基づいた意思決定によってリスクを保有することが含まれ得る。</p> <p>注記 2 機会は、新たな慣行の採用、新製品の発売、新市場の開拓、新たな顧客への取組み、パートナーシップの構築、新たな技術の使用、及び組織のニーズ又は顧客のニーズに取り組むためのその他の望ましくかつ実行可能な可能性につながり得る。</p>	3 4	<p>これらの取組み計画を策定するとき、リスク及び機会の重要度を考慮されましたか。</p> <p>これらの取組みを計画するとき、BAT(経済的に利用可能な最善の技術)や財務上、運用上、事業上の状況を考慮されましたか。</p>		
<p>8.2 緊急事態への準備及び対応</p> <p>組織は、6.1.1 で特定した潜在的な緊急事態への準備及び対応のために必要なプロセスを確立し、実施し、維持しなければならない。</p> <p>組織は、次の事項を行わなければならない。</p> <p>a) 緊急事態からの有害な環境影響を防止又は緩和するための処置を計画することによって、対応を準備する。</p> <p>b) 顕在した緊急事態に対応する。</p> <p>c) 緊急事態及びその潜在的な環境影響の大きさに応じて、緊急事態による結果を防止又は緩和するための処置をとる。</p> <p>d) 実行可能な場合には、計画した対応処置を定期的にテストする。</p> <p>e) 定期的に、また特に緊急事態の発生後又はテストの後には、プロセス及び計画した対応処置をレビューし、改訂する。</p> <p>f) 必要に応じて、緊急事態への準備及び対応についての関連する情報及び教育訓練を、組織の管理下で働く人々を含む関連する利害関係者に提供する。</p> <p>組織は、プロセスが計画どおりに実施されるという確信をもつために必要な程度の、文書化した情報を維持しなければならない。</p>	1 2 3 4 5 6 7	<p>潜在的な緊急事態の準備及び対応の計画(手順書)を見せてください。</p> <p>緊急事態の発生を予防する手順を説明してください。</p> <p>不幸にも、緊急事態が発生した場合の対応手順を説明してください。</p> <p>対応手順をどのような頻度でテストしていますか。その記録はありますか。</p> <p>緊急事態が発生したとき、どんな外部関係者に、どのように伝達しますか。</p> <p>テストの後、対応処置が適切であったかレビューされていますか。</p> <p>緊急事態の準備及び対応の手順を組織の管理下で働く人々にも教育していますか。</p>		
方針／目標管理				
<p>5.2 方針</p> <p>5.2.1 品質方針・環境方針の確立</p> <p>トップマネジメントは、次の事項を満たす品質方針・環境方針を確立し、実施し、維持しなければならない。</p>		<p>トップマネジメントのインタビューで確認(トップマネジメントのチェックリスト参照)</p>		
<p>6.2 目標及びそれを達成するための計画策定</p> <p>6.2.1 組織は、品質・環境マネジメントシステムに必要な、組織の著しい環境側面及び関連する順守義務を考慮に入れ、かつリスク及び機会を考慮し、関連する機能、階層及びプロセスにおいて、品質・環境目標を確立しなければならない。</p> <p>品質・環境目標は、次の事項を満たさなければならない。</p> <p>a) 品質方針・環境方針と整合している。</p> <p>b) 測定可能である。</p> <p>c) 適用される要求事項を考慮に入れる。</p> <p>d) 製品及びサービスの適合、並びに顧客満足の</p>	1 2 3	<p>品質目標はどのようなプロセスで設定されますか。</p> <p>例 ・ 昨年の不適合未達成原因の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画、上位方針 ・ リスク及び機会の取組み項目 ・ 予算及び人の制約条件の検討 <p>どのような品質目標がありますか。(d)項に適合しているか確認)</p> <p>環境目標は、どのような事柄を考慮に入れ</p>		

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
<p>向上に関連している</p> <p>e) 監視する。 f) 伝達する。 g) 必要に応じて、更新する。 組織は、品質目標に関する文書化した情報を維持しなければならない。</p> <p>6.2.2 組織は、品質・環境目標をどのように達成するかについて計画するとき、次の事項を決定しなければならない。</p> <p>a) 実施事項 b) 必要な資源 c) 責任者 d) 実施事項の完了時期 e) 結果の評価方法。</p> <p>これには、測定可能な環境目標の達成に向けた進捗を監視するための指標を含む。 組織は、環境目標を達成するための取組みを組織の事業プロセスにどのように統合するかについて、考慮しなければならない。</p>	<p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p>	<p>て、設定させていますか。</p> <p>期中での目標達成見込みの進捗の確認をどのように計画していますか。</p> <p>その目標及び達成計画にはSMARTが織り込まれていますか。 S:Significance(著しさ、意義)・質問1 M:Measurable(測定可能)・6.2.1b) A:Achievable(達成可能)・6.2.2a) R:Responsibility(責任)・6.2.2c) T:Time frame(期限)・6.2.2d)</p> <p>必要な資源(人、お金、技術)などは用意されていますか。</p> <p>目標を組織全体にどのように伝達されていますか。</p>		
<p>7.3 認識</p> <p>組織は、組織の管理下で働く人々に対して、次の事項に関して認識をもつことを確実にしなければならない。</p> <p>a)品質方針、環境方針 b)関連する品質目標、及び自分の業務に関する著しい環境側面及びそれに伴う顕在する又は潜在的な環境影響 c)パフォーマンスの向上によって得られる便益を含む、品質・環境マネジメントシステムの有効性に対する自らの貢献 d)組織の順守義務を満たさないことを含む、品質・環境マネジメントシステム要求事項に適合しないことの意味</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>	<p>組織の管理下で働く人々に対して、品質方針・環境方針、自分の業務に関する著しい環境側面、部署目標とその目標達成に対する自らの貢献についてどのような内部コミュニケーションや自覚教育を実施されていますか。</p> <p>コンプライアンスの不順守、事故、顧客苦情や不適合なアウトプットがあった場合、どのような不利益を被るか説明していますか。</p> <p>従業員の認識の状況を、どのようにして把握していますか。</p>		
<p>9 パフォーマンス評価 9.1.1 一般</p> <p>組織は、環境パフォーマンスを監視し、測定し、分析し、評価しなければならない。 組織は、次の事項を決定しなければならない。</p> <p>a) 監視及び測定が必要な対象 b) 妥当な結果を確実にするために必要な、監視、測定、分析及び評価の方法 c) 組織が環境パフォーマンスを評価するための基準及び適切な指標 d) 監視及び測定の実施時期 e) 監視及び測定の結果の、分析及び評価の時期</p> <p>組織は、品質・環境マネジメントシステムのパフォーマンス及び有効性を評価しなければならない。 組織は、監視、測定、分析及び評価の結果の証拠として、適切な文書化した情報を保持しなければならない。</p> <p>9.1.3 分析及び評価</p> <p>組織は、監視及び測定からの適切なデータ及び情報を分析し、評価しなければならない。 分析の結果は、次の事項を評価するために用いなければならない。</p> <p>a) 製品及びサービスの適合 b) 顧客満足度</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>環境パフォーマンスを評価するためにどのような基準及び指標を設定されていますか。</p> <p>品質目標・環境目標の取組み結果、目標は達成されましたか。 結果を見せてください。</p> <p>工事プロセスに関連するリスク及び機会への取り組みの有効性を評価した記録を見せてください。 例えば、工事成績評価点の達成状況</p> <p>品質マネジメントシステムのパフォーマンス及び有効性を改善するために、どのようなデータの分析を行っていますか。 例えば、工事成績評価点の達成状況、検査結果、監査結果、リスク及び機会への取組み、外部提供者の納期及び不適合発生状況</p>		

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
c) 品質マネジメントシステムのパフォーマンス及び有効性 d) 計画が効果的に実施されたかどうか。 e) リスク及び機会への取組みの有効性 f) 外部提供者のパフォーマンス g) 品質マネジメントシステムの改善の必要性 注記 データを分析する方法には、統計的手法が含まれ得る。	5	データを分析し、評価した記録を見せてください。改善すべき領域は明確になりましたか。		
	6	これらの評価結果より、次の期に、どんなことを織り込まなければなりませんか。		

施工計画プロセス

(建築設計等の製品の設計は、設計部のチェックリストを参照ください。)

8.3 製品及びサービスの設計・開発 8.3.1 一般 組織は、以降の製品及びサービスの提供を確実にするために適切な設計・開発プロセスを確立し、実施し、維持しなければならない。 8.1 運用の計画及び管理 ライフサイクルの視点に従って、組織は、次の事項を行わなければならない。 a) 必要に応じて、ライフサイクルの各段階を考慮して、製品又はサービスの設計及び開発プロセスにおいて、環境上の要求事項が取り込まれていることを確実にするために、管理を確立する。 ISO9000 用語の定義 3.4.8 設計・開発 対象(製品、サービス、プロセス、人、組織、システム、資源)に対する要求事項を、その対象に対するより詳細な要求事項に変換する一連のプロセス	1 施工計画を作成する際に、どのような工事について ISO の設計・開発を適用していますか。 例: 工事の実施の仕方については、詳細なことになると決めておかなければならないことが多くある工事、及び施工計画書の提出が要求される公共工事 2 施工計画を策定するとき原材料の調達、製造、輸送、使用、破棄の段階の環境側面から、どのような環境配慮事項として設定していますか。 例: グリーン調達、工事における周辺環境への配慮、省エネ型建機の使用、建設発生土の再利用、廃棄物のリサイクル、六価クロムの溶出等		
---	--	--	--

以下の項目は、具体的な工事案件を選んで、確認する。

8.3.2 設計・開発の計画 設計・開発の段階及び管理を決定するに当たって、組織は、次の事項を考慮しなければならない。 a) 設計・開発活動の性質、期間及び複雑さ b) 要求されるプロセス段階。これには適用される設計・開発のレビューを含む。 c) 要求される、設計・開発の検証及び妥当性確認活動 d) 設計・開発プロセスに関する責任及び権限 e) 製品及びサービスの設計・開発のための内部資源及び外部資源の必要性 f) 設計・開発プロセスに関与する人々間のインタフェースの管理の必要性 g) 設計・開発プロセスへの顧客及びユーザの参画の必要性 h) 以降の製品及びサービスの提供に関する要求事項 i) 顧客及びその他の密接に関連する利害関係者によって期待される、設計・開発プロセスの管理レベル j) 設計・開発の要求事項を満たしていることを実証するために必要な文書化した情報	1 施工計画の活動範囲及び作成手順はどのように決められていますか。 例えば、活動期間、プロセス段階、レビュー・検証・妥当性確認、責任者、資源、顧客とのやり取りなどについて決められた手順があれば説明してください。 例: ・責任者の任命 ・事前調査 ・仕様・図面等の理解とレビュー ・概略工程表作成 ・施工方法、使用機械、主な段取の計画 ・施工順序の決定 ・内容確認(レビュー) ・全体工程表 ・詳細工程表 ・工費の試算 ・比較・検討(レビュー) ・全体工程・詳細工程 実行予算・品質確保・仮設計画・使用機械 現場組織図、安全管理、環境保全、 建設副産物利用計画 ・施工計画書に編集 ・検証・妥当性確認		
---	--	--	--

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
<p>7.2 力量 組織は、次の事項を行わなければならない。</p> <p>a) 品質マネジメントシステムのパフォーマンス及び有効性に影響を与える業務、並びに組織の環境パフォーマンスに影響を与える業務、及び順守義務を満たす組織の能力に影響を与える業務を組織の管理下で行う人(又は人々)に必要な力量を明確にする。</p> <p>b) 適切な教育、訓練又は経験に基づいて、それらの人々が力量を備えていることを確実にする。</p> <p>c) 組織の環境側面及び環境マネジメントシステムに関する教育訓練のニーズを決定する。</p> <p>d) 該当する場合には、必ず、必要な力量を身に付けるための処置をとり、とった処置の有効性を評価する。</p> <p>e) 力量の証拠として、適切な文書化した情報を保持する。</p>	1 2 3	<p>1 資格保有一覧表を見せてください。施工計画書を作成するには、どのような資格保有が必要ですか。</p> <p>2 その評価には、環境配慮設計の力量に関する評価も入っていますか。</p> <p>3 施工計画書の作成者は誰が任命しますか。</p>		
<p>7.1.6 組織の知識 組織は、プロセスの運用に必要な知識、並びに製品及びサービスの適合を達成するために必要な知識を明確にしなければならない。この知識を維持し、必要な範囲で利用できる状態にしなければならない。</p> <p>変化するニーズ及び傾向に取り組む場合、組織は、現在の知識を考慮し、必要な追加の知識及び要求される更新情報を得る方法又はそれらにアクセスする方法を決定しなければならない。</p> <p>8.3.3 設計・開発へのインプット 組織は、設計・開発する特定の種類の製品及びサービスに不可欠な要求事項を明確にしなければならない。組織は、次の事項を考慮しなければならない。</p> <p>a) 機能及びパフォーマンスに関する要求事項</p> <p>b) 以前の類似の設計・開発活動から得られた情報</p> <p>c) 法令・規制要求事項</p> <p>d) 組織が実施することをコミットメントしている、標準又は規範 (codes of practice)</p> <p>e) 製品及びサービスの性質に起因する失敗により起こり得る結果</p> <p>インプットは、設計・開発の目的に対して適切で、漏れがなく、曖昧でないものでなければならない。設計・開発へのインプット間の相反は、解決しなければならない。</p> <p>組織は、設計・開発へのインプットに関する文書化した情報を保持しなければならない。</p> <p>8.1 運用の計画及び管理 ライフサイクルの視点に従って、組織は、次の事項を行わなければならない。</p> <p>a) 必要に応じて、ライフサイクルの各段階を考慮して、製品又はサービスの設計及び開発プロセスにおいて、環境上の要求事項が取り込まれていることを確実にするために、管理を確立する。</p>	1 2 3 4 5 6 7	<p>1 施工に関する、これまでの経験を明確にした知識は何処にまとめられていますか。例えば、技術標準、失敗事例集など</p> <p>2 これまでに経験しない工事の受注が予想される場合、不足する知識をどのように習得されますか。</p> <p>3 現場事前調査の記録があれば見せてください。事前調査では、どのような内容を確認されましたか。</p> <p>4 現場事前調査で、どのような課題が発見されましたか。</p> <p>5 以前の類似した施工の情報を考慮していますか。</p> <p>6 どんな法規制の要求事項が適用されますか。</p> <p>7 環境への配慮は、どのようなことを計画されましたか。</p>		

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
<p>8.3.4 設計・開発の管理</p> <p>組織は、次の事項を確実にするために、設計・開発プロセスを管理しなければならない。</p> <p>a) 達成すべき結果を定める。</p> <p>b) 設計・開発の結果の、要求事項を満たす能力を評価するために、レビューを行う。</p> <p>c) 設計・開発からのアウトプットが、インプットの要求事項を満たすことを確実にするために、検証活動を行う。</p> <p>d) 結果として得られる製品及びサービスが、指定された用途又は意図された用途に応じた要求事項を満たすことを確実にするために、妥当性確認活動を行う。</p> <p>e) レビュー、又は検証及び妥当性確認の活動中に明確になった問題に対して必要な処置をとる。</p> <p>f) これらの活動についての文書化した情報を保持する。</p> <p>注記 設計・開発のレビュー、検証及び妥当性確認は、異なる目的をもつ。これらは、組織の製品及びサービスに応じた適切な形で、個別に又は組み合わせて行うことができる。</p>	1 2 3	<p>1 施工計画書の作成プロセスでの確認(レビュー)の記録を見せてください。</p> <p>2 施工計画書の検証は誰が行っていますか。記録を見せてください。</p> <p>3 妥当性確認はどのように行っていますか。例えば、顧客へ提出して見てもらう。</p>		
<p>8.3.5 設計・開発のアウトプット</p> <p>組織は、設計・開発からのアウトプットが、次のとおりであることを確実にしなければならない。</p> <p>a) インプットで与えられた要求事項を満たす。</p> <p>b) 製品及びサービスの提供に関する以降のプロセスに対して適切である。</p> <p>c) 必要に応じて、監視及び測定の要求事項、並びに合否判定基準を含むか、又はそれらを参照している。</p> <p>d) 意図した目的並びに安全で適切な使用及び提供に不可欠な、製品及びサービスの特性を規定している。</p> <p>組織は、設計・開発のアウトプットについて、文書化した情報を保持しなければならない。</p> <p>8.1 運用の計画及び管理</p> <p>ライフサイクルの視点に従って、組織は、次の事項を行わなければならない。</p> <p>d) 製品及びサービスの輸送又は配送(提供)、使用、使用後の処理及び最終処分に伴う潜在的な著しい環境影響に関する情報を提供する必要性について考慮する。</p>	1 2 3 4 5	<p>1 施工計画のアウトプットには何が含まれますか。 例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施工計画書 ・建設副産物利用計画 ・検査計画及び立会い計画 ・作業指示書 <p>2 施工計画のアウトプットの事例を見せてください。</p> <p>3 それぞれの計画には合否判定基準が明確になっていますか。</p> <p>4 安全・セキュリティなどの重要な特質がしっかり網羅されていますか。</p> <p>5 成果物の発注者、輸送、使用者、処理者に対して提供する環境情報にはどんなものがあるか検討されていますか。 例えば、使用した有害化学物質、産業廃棄物の内容、土壌汚染や湧き水の有無など</p>		
<p>8.3.6 設計・開発の変更</p> <p>組織は、要求事項への適合に悪影響を及ぼさないことを確実にするために必要な程度まで、製品及びサービスの設計・開発の間又はそれ以降に行われた変更を識別し、レビューし、管理しなければならない。</p> <p>組織は、次の事項に関する文書化した情報を保持しなければならない。</p> <p>a) 設計・開発の変更</p> <p>b) レビューの結果</p> <p>c) 変更の許可</p> <p>d) 悪影響を防止するための処置</p>	1 2 3	<p>1 施工計画の途中及び施工計画作成後に発生した変更はどのように扱われますか。</p> <p>2 変更の記録を見せてください。</p> <p>3 変更を実施する前に、外部に承認が出していますか。(法令・規制面での承認又は顧客の承認を含む場合がある)</p>		

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
購買プロセス				
<p>8.4 外部から提供されるプロセス (EMS 8.1) 8.4.1 一般 組織は、外部委託したプロセスが管理されている又は影響を及ぼされていることを確実にしなければならない。</p> <p>組織は、次の事項に該当する場合には、外部から提供されるプロセス、製品及びサービスに適用する管理を決定しなければならない。</p> <p>a) 外部提供者からの製品及びサービスが、組織自身の製品及びサービスに組み込むことを意図したものである場合</p> <p>b) 製品及びサービスが、組織に代わって、外部提供者から直接顧客に提供される場合</p> <p>c) プロセス又はプロセスの一部が、組織の決定の結果として、外部提供者から提供される場合</p> <p>組織は、要求事項に従ってプロセス又は製品・サービスを提供する外部提供者の能力に基づいて、外部提供者の評価、選択、パフォーマンスの監視、及び再評価を行うための基準を決定し、適用しなければならない。組織は、これらの活動及びその評価によって生じる必要な処置について、文書化した情報を保持しなければならない。</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p>	<p>当社が外部委託するプロセスにはどのようなものがありますか？ 例、関連会社・下請負先への工事や原材料・組み込み製品の製造の委託</p> <p>これらの外部提供者にどのような管理を行っていますか。 例えば、 － 原材料が技術仕様書に適合するか検査又は試験で検証する － パートナ会社によって提供される活動が、特定の安全設備を使用し、定められた力量を備えた人々によって遂行されること確認する。</p> <p>外部提供先の評価、選定及び再評価の基準を見せてください。</p> <p>その評価には、外部提供先の環境影響と保全に関する評価が含まれていますか。</p> <p>外部提供者のパフォーマンスの監視結果の記録を見せてください。 例えば、不適合の発生状況、納期</p> <p>外部提供者のリストをどのような頻度で更新していますか。</p>		
<p>8.4.2 管理の方式及び程度 組織は、外部から提供されるプロセス、製品及びサービスを、顧客に一貫して適合した製品及びサービスを引き渡す組織の能力に悪影響を及ぼさないことを確実にしなければならない。</p> <p>組織は、次の事項を行わなければならない。</p> <p>a) 外部から提供されるプロセスを組織の品質マネジメントシステムの管理下にとどめることを、確実にする。</p> <p>b) 外部提供者に適用するための管理、及びそのアウトプットに適用するための管理の両方を定める。</p> <p>c) 次の事項を考慮に入れる。</p> <p>1) 外部から提供されるプロセス、製品及びサービスが、顧客要求事項及び適用される法令・規制要求 事項を一貫して満たす組織の能力に与える潜在的な影響</p> <p>2) 外部提供者によって適用される管理の有効性</p> <p>d) 外部から提供されるプロセス、製品及びサービスが要求事項を満たすことを確実にするために必要な 検証又はその他の活動を明確にする。</p> <p>8.1 運用の計画及び管理 外部委託したプロセスに適用される、管理する又は影響を及ぼす方式及び程度は、環境マネジメントシステムの中で定めなければならない。</p> <p>ライフサイクルの視点に従って、組織は、次の事項を行わなければならない。</p> <p>b) 必要に応じて、製品及びサービスの調達に関する環境上の要求事項を決定する。</p> <p>c) 請負者を含む外部提供者に対して、関連する環境上の要求事項を伝達する。</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p>	<p>外部から提供されるプロセス及び購買製品の管理の方式は、施工品質への影響の程度を考慮して決められていますか。</p> <p>外部から提供されるプロセスは、当社のQMSの要求に適合していることを、どのように管理していますか。 例えば、資格認定、製品の試験、工事チェックリストの使用等</p> <p>その管理は、外部提供者に適用する管理と、その製品及びサービスの両方について実施されていますか。</p> <p>外部から提供される製品及び工事プロセスが要求事項を満たしているかどのように検証していますか。その記録を見せてください。 例えば、受入検査、分析証明書のレビュー、第三者監査、サンプルの試験、パフォーマンス指標の評価</p> <p>環境に配慮した製品を購入するための手順を策定されていますか。 例えば、グリーン購買ガイドライン、契約書・合意文書、指示書、環境マネジメントシステムの奨励、廃棄物の再資源化要請、エコ梱包など</p> <p>これらの文書類をどのように、請負者、供給者及び利用者に伝達していますか。</p>		

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
8.4.3 外部提供者に対する情報 組織は、外部提供者に伝達する前に、要求事項が妥当であることを確実にしなければならない。 組織は、次の事項に関する要求事項を、外部提供者に伝達しなければならない。 a) 提供されるプロセス、製品及びサービス b) 次の事項についての承認 1) 製品及びサービス 2) 方法、プロセス及び設備 3) 製品及びサービスのリリース c) 人々の力量。これには必要な適格性を含む。 d) 組織と外部提供者との相互作用 e) 組織が適用する、外部提供者のパフォーマンスの管理及び監視 f) 組織又はその顧客が外部提供者先での実施を意図している検証又は妥当性確認活動	1	購買業務で順守しなければならない法規制には、どんなものがありますか。 例えば、下請法(書面の交付、支払い期限、禁止事項等の規制項目)		
	2	購買先(又は外部提供者)に対する発注仕様、又は注文書を見せて下さい。 (8.4.2 a)～f)項が含まれているか確認)		
	3	発注仕様は、グリーン購買や施工計画に含まれた仕様と一致しているかどのように確認していますか。		
	4	要求されたコストで発注仕様に合う製品を、候補となる外部供給者が提供することができることを確実にするために、両者間でどのように協議を行いますか。 例えば、現地確認、見積書の提出と協議等		
	5	パフォーマンス評価の結果及び管理について外部提供者にどのように伝達していますか。 例えば、不適合の発生状況、納期		

施工プロセス

8.1 運用の計画及び管理 組織は、次に示す事項の実施によって、 環境マネジメントシステム要求事項を満たすため、製品及びサービスの提供に関する要求事項を満たすため 、並びに簡条 6 で決定した取組みを実施するために必要なプロセスを、計画し、実施し、かつ、管理しなければならない。 a) 製品及びサービスに関する要求事項の明確化 b) 次の事項に関する基準の設定 1) プロセス 2) 製品及びサービスの合否判定 c) 製品及びサービスの要求事項への適合を達成するために必要な資源の明確化 d) b) の基準に従った、プロセスの管理の実施 e) 次の目的のために必要な程度の、文書化した情報の明確化、維持及び保持 1) プロセスが計画どおりに実施されたという確信をもつ。 2) 製品及びサービスの要求事項への適合を実証する。 注記 管理は、工学的な管理及び手順を含み得る。管理は、優先順位(例えば、除去、代替、管理的な対策)に従って実施されることもあり、また、個別に又は組み合わせられて用いられることもある。 この計画のアウトプットは、組織の運用に適したものでなければならない。 組織は、計画した変更を管理し、意図しない変更によって生じた結果をレビューし、必要に応じて、有害な影響を軽減する処置をとらなければならない。	1	施工管理を実施する計画には、どのような計画がありますか。 例えば、設計図書、工事品質計画書、施工計画書、品質管理基本工程表、検査計画・立会計画、など。		
	2	環境マネジメントシステムの要求事項を満たすために計画し管理するプロセスにはどのようなものがありますか。 例えば、環境目標を達成するための計画及び関連する手順、アスベスト処理、地盤沈下防止、湧水処理、フロンや水銀の回収、騒音・振動・粉塵の管理、交通対策など <参考> 管理の形態には、手順、作業指示書、物理的管理、力量を備えた要員の登用、これらの組合せなどがある。		
	3	その計画を作成するときには、6.1 で決定したリスク及び機会並びに 品質目標、環境目標、製品・サービスの要求事項 を考慮しましたか。		
	4	運用の計画書類の内容を確認する。 (プロセス、合否判定基準、必要な資源、記録類)		
	5	環境に関する運用プロセスの実施状況を確認する。(記録又は現場確認)		

以下の項目は、具体的な工事案件を選んで、確認する。

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
<p>7.1.1 資源 組織は、品質・環境マネジメントシステムの確立、実施、維持及び継続的改善に必要な資源を明確にし、提供しなければならない。 組織は、次の事項を考慮しなければならない。 a)既存の内部資源の実現能力及び制約 b)外部提供者から取得する必要があるもの</p> <p>ISO14001 A.7.1 抜粋 資源には、人的資源、天然資源、インフラストラクチャ、技術及び資金が含まれ得る。人的資源の例には、専門的な技能及び知識が含まれる。インフラストラクチャの資源の例には、組織の建物、設備、地下タンク及び排水システムが含まれる。</p>	1 2	<p>7.1.2 から 7.1.6 に記載されている資源以外に品質・環境マネジメントに必要な資源はありますか。 例えば、技術、情報、資金、外部提供者の資源、天然資源(水・燃料エネルギー)など</p> <p>内部の資源の現在の人、設備、技術等の能力や資金の制約から、外部から取得する資源はありますか。あれば、その資源は何ですか。</p>		
<p>7.1.2 人々 組織は、品質マネジメントシステムの効果的な実施、並びにそのプロセスの運用及び管理のために必要な人々を明確にし、提供しなければならない。</p>	1	<p>工事に必要な要員(作業員)をどのように明確にしていますか。 例えば、資格保有一覧表</p>		
<p>7.1.6 組織の知識 組織は、プロセスの運用に必要な知識、並びに製品及びサービスの適合を達成するために必要な知識を明確にしなければならない。この知識を維持し、必要な範囲で利用できる状態にしなければならない。 変化するニーズ及び傾向に取り組む場合、組織は、現在の知識を考慮し、必要な追加の知識及び要求される更新情報を得る方法又はそれらにアクセスする方法を決定しなければならない。</p> <p>7.2 力量 組織は、次の事項を行わなければならない。 a) 品質マネジメントシステムのパフォーマンス及び有効性に影響を与える業務、並びに組織の環境パフォーマンスに影響を与える業務、及び順守義務を満たす組織の能力に影響を与える業務を組織の管理下で行う人(又は人々)に必要な力量を明確にする。 b) 適切な教育、訓練又は経験に基づいて、それらの人々が力量を備えていることを確実にする。 c) 組織の環境側面及び環境マネジメントシステムに関する教育訓練のニーズを決定する。 d) 該当する場合には、必ず、必要な力量を身に付けるための処置をとり、とった処置の有効性を評価する。 e) 力量の証拠として、適切な文書化した情報を保持する。</p> <p>注記 適用される処置には、例えば、現在雇用している人々に対する、教育訓練の提供、指導の実施、配置転換の実施などがあり、また、力量を備えた人々の雇用、そうした人々との契約締結などもあり得る。</p>	1 2 3 2 3 4 5 6	<p>施工や成果品の適合性に対するリスク(不具合の発生の可能性)との関連で、これまでの経験を明確にした知識は何処にまとめられていますか。 例えば、技術標準、作業標準、失敗事例集等</p> <p>これまでに経験しない工事の受注が予想される場合、不足する知識をどのように習得されますか。</p> <p>品質マネジメントシステムに関連する業務を行う人の資格保有一覧表を見せてください。</p> <p>順守義務を決定し評価する人、環境パフォーマンスに影響を与える業務を行う人、に対する力量評表はありますか。</p> <p>これらの要員には、下請負業者も入っていますか。</p> <p>要員(作業員)の教育訓練の必要性はどのように明確にされていますか。</p> <p>Off JT、OJT の教育訓練計画書を見せてください。</p> <p>新規入場者教育はどのように実施されていますか。</p>		
<p>7.1.4 プロセスの運用に関する環境 組織は、プロセスの運用に必要な環境、並びに製品及びサービスの適合を達成するために必要な環境を明確にし、提供し、維持しなければならない。 注記 適切な環境は、次のような人的及び物理的要因</p>	1	<p>施工の品質に影響する物理的環境要因にはどんなものがありますか。また、それらをどのように管理していますか。 例えば、寒中コンクリートの管理、暑中コンクリートの管理など</p>		

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
<p>の組合せであり得る。</p> <p>a) 社会的要因(例えば、非差別的、平穩、非対立的)</p> <p>b) 心理的要因(例えば、ストレス軽減、燃え尽き症候群防止、心のケア)</p> <p>c) 物理的要因(例えば、気温、熱、湿度、光、気流、衛生状態、騒音)これらの要因は、提供する製品及びサービスによって、大いに異なり得る。</p>	2	<p>作業員の起こり得るミスや疲労を防止するためにどのようなことを実施されていますか。</p> <p>例えば、働き方改革(高い作業負荷を避ける)、ストレスチェック、熱中症対策</p>		
<p>7.1.3 インフラストラクチャ</p> <p>組織は、プロセスの運用に必要なインフラストラクチャ、並びに製品及びサービスの適合を達成するために必要なインフラストラクチャを明確にし、提供し、維持しなければならない。</p> <p>注記 インフラストラクチャには、次の事項が含まれ得る。</p> <p>a)建物及び関連するユーティリティ</p> <p>b)設備。これにはハードウェア及びソフトウェアを含む。</p> <p>c)輸送のための資源</p> <p>d)情報通信技術</p> <p>ISO14001 A7.1</p> <p>インフラストラクチャの資源の例には、組織の建物、設備、地下タンク及び排水システムが含まれる</p>	1	<p>施工に必要なインフラには、どのようなものがありますか。(基本的には施工計画書に記載されている)</p>		
<p>8.5 製品及びサービスの提供</p> <p>8.5.1 製品及びサービス提供の管理</p> <p>組織は、製造及びサービス提供を、管理された状態で実行しなければならない。</p> <p>管理された状態には、次の事項のうち、該当するものについては、必ず、含めなければならない。</p> <p>a) 次の事項を定めた文書化した情報を利用できるようにする。</p> <p>1) 製造する製品、提供するサービス、又は実施する活動の特性。</p> <p>2) 達成すべき結果</p> <p>b) 監視及び測定のための適切な資源を利用できるようにし、かつ、使用する。</p> <p>c) プロセス又はアウトプットの管理基準、並びに製品及びサービスの合否判定基準を満たしていることを検証するために、適切な段階で監視及び測定活動を実施する。</p> <p>d) プロセスの運用のための適切なインフラストラクチャ及び環境を使用する。</p> <p>e) 必要な適格性を含め、力量を備えた人々を任命する。</p> <p>g) ヒューマンエラーを防止するための処置を実施する。</p> <p>h) リリース、顧客への引渡し及び引渡し後の活動を実施する。</p> <p>f) 製造及びサービス提供のプロセスで結果として生じるアウトプットを、それ以降の監視又は測定で検証することが不可能な場合には、製造及びサービス提供に関するプロセスの、計画した結果を達成する能力について、妥当性確認を行い、定期的に妥当性を再確認する。</p>	1	<p><以下、施工工程を管理された状態で実行しているかをインタビュー又は現場観察で確認する></p> <p>a) 関連する文書が作成され、入手可能であるか。</p> <p>例えば、設計図書/仕様書/施工計画書/手順書/作業指示書など。また、これらの中には「達成すべき結果」が記載されているか。</p> <p>b) 校正された監視機器や監査機器が用意されているか。</p> <p>c) どこで工程内検査、完成検査及び試験を実施すべきかが明確になっており、実施されているか。</p> <p>e) 必要な設備及び作業環境が明確になっており、保守管理されているか。</p> <p>要員(作業員)に必要な資格、及び力量が明確になっているか。</p> <p>g) 人的ミスを防止する処置を講じているか。</p> <p>例えば、適切な労働環境、十分な教育訓練、外国人労働者に対するコミュニケーション手段、IT機器の活用、ジョブローテーション、</p> <p>h) 製品及びサービスの引き渡しの管理、引き渡し後の活動を実施しているか。</p> <p>例えば、最終検査、完成検査、瑕疵保証等</p>		
	2	<p>施工プロセスの能力の妥当性確認を行う必要のある場合には、どんな場合がありますか。</p> <p>例えば</p> <p>1) 特殊工程</p> <p>(溶接、塗装、メッキ、熱処理、レミコン打設、</p>		

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
	3	防水、滅菌) 2) 新規設備や工法を導入するとき 特殊工程の要因管理をどのように実施していますか。 例えば、要員の資格認定、作業手順の策定、設備管理等		
8.5.2 識別及びトレーサビリティ 製品及びサービスの適合を確実にするために必要な場合、組織は、アウトプットを識別するために、適切な手段を用いなければならない。 組織は、製造及びサービス提供の全過程において、監視及び測定の実施事項に関連して、アウトプットの状態を識別しなければならない。 トレーサビリティが要求事項となっている場合には、組織は、アウトプットについて一意の識別を管理し、トレーサビリティを可能とするために必要な文書化した情報を保持しなければならない。	1 2 3 4	製品の識別の状況(現場観察) 検査前、検査後の区分(現場観察) トレーサビリティの記録を保管しなければならないものには、どんなものがありますか。 例えば、顧客からの要求(工事毎に定められた品質特性試験の記録、鋼材のミルシート等)、自社で決めたもの(設計図書、工事記録、検査記録等) トレーサビリティの記録を見せて下さい。		
8.5.3 顧客又は外部提供者の所有物 組織は、顧客又は外部提供者の所有物について、それが組織の管理下にある間、又は組織がそれを使用している間は、注意を払わなければならない。 組織は、使用するため又は製品及びサービスに組み込むために提供された顧客又は外部提供者の所有物の識別、検証及び保護・防護を実施しなければならない。 顧客若しくは外部提供者の所有物を紛失若しくは損傷した場合、又はその他これらが使用に適さないと判明した場合には、組織は、その旨を顧客又は外部提供者に報告し、発生した事柄について文書化した情報を保持しなければならない。 注記 顧客又は外部提供者の所有物には、材料、部品、道具、設備、施設、知的財産、個人情報などが含まれ得る。	1 2 3	顧客又は外部提供者の所有物にはどんなものがありますか。 例えば、支給された材料や部品、測定装置や治工具、技術文書、建設作業員が利用する顧客の食堂等 顧客支給品を損傷させた場合は、どのような手続きをしますか。 技術文書の機密保持はどのようにされていますか。		
8.5.4 保存 組織は、製造及びサービス提供を行う間、要求事項への適合を確実にするために必要な程度に、アウトプットを保存しなければならない。 注記 保存に関わる考慮事項には、識別、取扱い、汚染防止、包装、保管、伝送又は輸送、及び保護が含まれ得る。	1 2 3 4	製品に損傷を与えないために、養生の基準が定められていますか。 次工程あるいは製品の引き渡しまでの劣化を防止するための保存基準がありますか。 顧客にデータ又はソフトウェアを伝送するここにありますか、その場合、どのような保護をしていますか。 実施状況の確認(現場観察)		

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
<p>8.5.6 変更の管理 組織は、製造又はサービス提供に関する変更を、要求事項への継続的な適合を確実にするために必要な程度まで、レビューし、管理しなければならない。 組織は、変更のレビューの結果、変更を正式に許可した人(又は人々)及びレビューから生じた必要な処置を記載した、文書化した情報を保持しなければならない。</p>	1 2 3	<p>1 施工の変更がある場合、望ましくない結果が起こる可能性を検討していますか。</p> <p>2 変更は誰が許可しますか。</p> <p>3 変更のレビュー及び処置の記録を見せてください。</p>		
監視／検査プロセス				
<p>7.1.2 人々 組織は、品質マネジメントシステムの効果的な実施、並びにそのプロセスの運用及び管理のために必要な人々を明確にし、提供しなければならない。</p> <p>7.2 力量 組織は、次の事項を行わなければならない。 a) 品質マネジメントシステムのパフォーマンス及び有効性に影響を与える業務をその管理下で行う人(又は人々)に必要な力量を明確にする。 b) 適切な教育、訓練又は経験に基づいて、それらの人々が力量を備えていることを確実にする。 c) 該当する場合には、必ず、必要な力量を身に付けるための処置をとり、とった処置の有効性を評価する。 d) 力量の証拠として、適切な文書化した情報を保持する。</p>	1 2 3 4	<p>1 工程内検査員、及び最終検査員はどんな技術的知識又は資格を持っていないでしょうか。</p> <p>2 リストを見せてください。</p> <p>3 検査員の教育訓練の必要性はどのように明確にされていますか。</p> <p>4 OJT はどのように管理、遂行されていますか。記録を見せて下さい。</p>		
<p>7.1.5 監視及び測定のための資源 7.1.5.1 一般 要求事項に対する製品及びサービスの適合を検証するために監視又は測定を用いる場合、組織は、結果が妥当で信頼できるものであることを確実にするために必要な資源を明確にし、提供しなければならない。 組織は、用意した資源が次の事項を満たすことを確実にしなければならない。 a) 実施する特定の種類の監視及び測定活動に対して適切である。 b) その目的に継続して合致することを確実にするために維持されている。 組織は、監視及び測定のための資源が目的と合致している証拠として、適切な文書化した情報を保持しなければならない。</p> <p>7.1.5.2 測定のトレーサビリティ 測定のトレーサビリティが要求事項となっている場合、又は組織がそれを測定結果の妥当性に信頼を与えるための不可欠な要素とみなす場合には、測定機器は、次の事項を満たさなければならない。 a) 定められた間隔で又は使用前に、国際計量標準又は国家計量標準に対してトレーサブルである計量標準に照らして校正若しくは検証、又はそれらの両方を行う。そのような標準が存在しない場合には、校正又は検証に用いたよりどころを、文書化した情報として保持する。</p>	1 2 3 4 5 6	<p>1 製品の品質を検査するために必要な資源には、どのようなものがありますか。 例えば、力量を備えた検査員(目視検査の場合)、施工プロセス検査チェックシート、限度見本、監視・測定機器</p> <p>2 監視・測定の目的と資源との関係を示した文書類がありますか。 (目的との合致を確認しているか)</p> <p>3 環境パフォーマンスの監視機器及び測定機器には、どんな機器がありますか。</p> <p>4 検査及び試験に必要な機器の台帳を見せてください。 (測定のトレーサビリティが必要な測定機器が網羅されているかを確認する)</p> <p>5 校正の記録を見せて下さい。</p> <p>6 コンピュータソフトウェアが組み込まれて検査機器はありますか。誤作動が起きないか、どのように確認していますか。</p>		

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
<p>b) それらの状態を明確にするために識別を行う。</p> <p>c) 校正の状態及びそれ以降の測定結果が無効になってしまうような調整、損傷又は劣化から保護する。</p> <p>測定機器が意図した目的に適していないことが判明した場合、組織は、それまでに測定した結果の妥当性を損なうものであるか否かを明確にし、必要に応じて、適切な処置をとらなければならない。</p> <p>9.1 監視、測定、分析及び評価</p> <p>組織は、必要に応じて、校正された又は検証された監視機器及び測定機器が使用され、維持されていることを確実にしなければならない。</p>	7	<p><現場又は、業務プロセスの監査で確認></p> <p>次回校正の表示、機器の保護・管理の状態、校正・検証の記録、校正記録に不適合があった場合の処置 等</p>		
<p>8.6 製品及びサービスのリリース</p> <p>組織は、製品及びサービスの要求事項を満たしていることを検証するために、適切な段階において、計画した取決めを実施しなければならない。</p> <p>計画した取決めが問題なく完了するまでは、顧客への製品及びサービスのリリースを行ってはならない。ただし、当該の権限をもつ者が承認し、かつ、顧客が承認したとき(該当する場合には、必ず)は、この限りではない。</p> <p>組織は、製品及びサービスのリリースについて文書化した情報を保持しなければならない。これには、次の事項を含まなければならない。</p> <p>a) 合否判定基準への適合の証拠</p> <p>b) リリースを正式に許可した人(又は人々)に対するトレーサビリティ</p>	1	<p>1 工程内検査の検査チェックリストを見せてください。</p> <p>2 工程内検査の記録を見せてください。</p> <p>3 最終検査の検査チェックリストを見せてください。</p> <p>4 最終検査の記録を見せてください。</p> <p>5 顧客に製品の出荷・引き渡しを許可する人は誰ですか。(顧客に製品の出荷を許可する人は)個別製品の実現の計画で決めたことが問題なく完了したことをどのように確認していますか。</p> <p>6 完成検査及び竣工検査の記録を見せてください。</p>		
<p>8.7 不適合なアウトプット</p> <p>8.7.1 組織は、要求事項に適合しないアウトプットが誤って使用されること又は引き渡されることを防ぐために、それらを識別し、管理することを確実にしなければならない。</p> <p>組織は、不適合の性質、並びにそれが製品及びサービスの適合に与える影響に基づいて、適切な処置をとらなければならない。これは、製品の引渡し後、サービスの提供中又は提供後に検出された、不適合な製品及びサービスにも適用されなければならない。</p> <p>組織は、次の一つ以上の方法で、不適合なアウトプットを処理しなければならない。</p> <p>a) 修正</p> <p>b) 製品及びサービスの分離、散逸防止、返却又は提供停止</p> <p>c) 顧客への通知</p> <p>d) 特別採用による受入の正式な許可の取得</p> <p>不適合なアウトプットに修正を施したときには、要求事項への適合を検証しなければならない。</p> <p>8.7.2 組織は、次の事項を満たす文書化した情報を保持しなければならない。</p> <p>a) 不適合が記載されている。</p>	1	<p>1 検査で発見された不適合製品はどのように処置していますか。</p> <p>2 その不適合と処置の記録はありますか。</p> <p>3 不適合製品が間違っ次工程に流れなることをどのような方法で防止していますか。</p> <p>4 顧客に製品を引き渡した後に検出された、不適合な製品又はサービスはどのように処置していますか。</p> <p>5 処置をとる権限はどのように決められていますか。</p> <p>6 不適合なアウトプット(製品又はサービス)及び、その処置の記録を見せ</p> <p>7 <現場へ出て確認></p> <p>不適合製品の識別の実施状況。</p>		

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
b) とった処置が記載されている。 c) 取得した特別採用が記載されている。 d) 不適合に関する処置について決定する権限をもつ者を特定している。				
9.1.2 順守評価 (EMS) 組織は、順守義務を満たしていることを評価するために必要なプロセスを確立し、実施し、維持しなければならない。 組織は、次の事項を行わなければならない。 a) 順守を評価する頻度を決定する。 b) 順守を評価し、必要な場合には、処置をとる。 c) 順守状況に関する知識及び理解を維持する。 組織は、順守評価の結果の証拠として、文書化した情報を保持しなければならない。	1 2 3 4 5	1 工事が関連する環境法規制及び製品、労働安全衛生の順守項目にはどのような項目がありますか。 2 順守項目をキチンと守っていることをどのような頻度・方法で確認していますか。 3 誰が順守評価を実施していますか。順守評価を実施する人は法規制ように関して、どのような知識又は教育を受けていますか。 4 最近行った順守評価の記録を見せてください。 5 (不順守があった場合)、不順守に対してどのような処置をとりましたか。		

改 善

9.1.3 分析及び評価 組織は、監視及び測定からの適切なデータ及び情報を分析し、評価しなければならない。 分析の結果は、次の事項を評価するために用いなければならない。 a) 製品及びサービスの適合 e) リスク及び機会への取組みの有効性 注記 データを分析する方法には、統計的手法が含まれ得る。 10.2 不適合及び是正処置 10.2.1 苦情から生じたものを含め、不適合が発生した場合、組織は、次の事項を行わなければならない。 a) その不適合に対処し、該当する場合には、必ず、次の事項を行う。 1) その不適合を管理し、修正するための処置をとる。 2) 有害な環境影響の緩和を含め、その不適合によって起こった結果に対処する。 b) その不適合が再発又は他のところで発生しないようにするため、次の事項によって、その不適合の原因を除去するための処置をとる必要性を評価する。 1) その不適合をレビューし、分析する。 2) その不適合の原因を明確にする。 3) 類似の不適合の有無、又はそれが発生する可能性を明確にする。 c) 必要な処置を実施する。 d) とった全ての是正処置の有効性をレビューする。 e) 必要な場合には、計画の策定段階で決定したリスク及び機会を更新する。	1 2 3 4 5 6 7	1 工事に関連するデータの分析は、何時、どのように実施されていますか。 例えば、不適合製品の発生率、工事成績通知表の評価点、法令・規制要求事項への適合度合等傾向分析 2 どのようなものを、是正処置(不適合の原因を除去する処置)をとる必要がある、と判断していますか。 例 顧客苦情、データの分析結果で重要と評価した項目等 3 不適合及び是正処置の具体的事例を見せてください。 4 原因分析にはどのような手法を活用しますか。 5 類似の不適合の有無、又はそれが発生するか可能性をどのように判断していますか。 6 有効性のレビューは、原因分析のやり方・対策の決定方法・効果確認の全てのステップをレビューしていますか。 7 レビュー結果は、リスク及び機会(箇条 6.1)に反映させていますか。		
--	---------------------------------	--	--	--

規格要求事項(黒:共通、茶:QMS 独自、青:EMS 独自)	No	質問事項	評価	メモ
<p>f) 必要な場合には、品質・環境マネジメントシステムの変更を行う。 是正処置は、環境影響も含め、検出された不適合のもつ影響に応じたものでなければならない。</p> <p>10.2.2 組織は、次に示す事項の証拠として、文書化した情報を保持しなければならない。</p> <p>a) 不適合の性質及びそれに対してとったあらゆる処置</p> <p>b) 是正処置の結果</p>	8	<p>(例えば、予防処置項目として)</p> <p>品質・環境マネジメントシステムの製造プロセスに変更を加える必要性を検討されていますか。</p>		

施工現場チェックリスト

Q : 品質、E : 環境		監査員		年月日	
工事名					
場所					
工事内容					
工事期間					
人数					
工事主					
面談者					
	条項番号	確認項目	評価	メモ	
施工計画の内容確認	Q8.3	施工計画の項目			
	Q8.5	全体工程／日程表			
	Q8.5	工法と使用設備／機械			
	Q8.5.1f	品質試験特性			
	E8.1	環境配慮事項			
	E8.1	建設副産物利用計画			
	E8.1	適用される法規制（品質/環境/労働安全）			
	Q8.7	検査計画			
現場観察	Q 7.1.4	プロセス環境（施工条件の管理）			
	Q8.5.1g)	5S/KY（ヒューマンエラーの防止）			
	Q8.5.2	製品の識別／トレーサビリティ			
	Q8.5.4	製品の保存の状況			
	Q8.7	不適合製品の識別と管理			
	E8.1	計画した環境配慮事項の実施状況			
	E8.1	省エネルギー／自然保護			
	E8.1	建設副産物/産業廃棄物の管理			
	Q/E 10.3	創意工夫			
力量	Q/E7.2	資格保有及び力量管理			
	Q/E7.2	入場者教育			
	Q8.4.2	下請負先の管理			
検査	Q8.6	工程内検査の実施状況			
	Q 8.5.1f)	品質特性試験の実施状況			
	Q 8.6	最終検査の実施状況			
	Q7.1.5	検査機器の校正の実施状況			
法令順守	Q8.2.2a)	製品に適用される法令・規制等要求事項の順守状況			
	Q 7.1.4	労働安全衛生法の順守状況			
	E 9.1.2	環境法規制等の順守状況			

